（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2371001336		
法人名	医療法人　純正会		
事業所名	グループホームサンハウス荒子　2F		
所在地	愛知県名古屋市中川区高畑2丁目274番地		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001336-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成27月12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者ひとりひとりの尊厳を大事にしている。相手の立場にたって物事を考えケアをおこなっている。食事は、おいしいものを食べていただきたいので、手創りであたたかいものを提供している。家事は、スタッフと利用者が一緒におこない家庭的な雰囲気の中、生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは、母体が高齢者の医療面での専門的な支援を行っている医療機関でもあるため、ホームでの生活が困難になった際には、関連の医療機関への入院等に移行することができる関係でもある。法人全体で重度の方の支援が行われていることで、利用者、家族にとって、安心して過ごすことができる。日常的な支援については、管理者が着任した際にホーム理念の見直しを行っており、利用者への尊厳の配慮を第一に考えた内容の理念の浸透に取り組んでいる。理念の浸透について、時間をかけて取り組んできたこともあり、職員の言葉遣いの配慮等、職員の意識向上にもつながっている。現状、職員体制が厳しい状況が続いているが、毎日の手作りの食事作りが行われているり、季節に配慮した飾り付けを行っており、利用者がホームでの毎日の生活を楽しんでもらえるような取り組みを継続している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「尊厳を第一に考え、その人の立場に立った思いやりのある介護」の運営理念は職員間で共有し、日々のケアに役立てている。	利用者の尊厳に配慮した内容の理念をホームの基本方針に掲げており、フロア一毎に掲示が行われている。管理者より職員に対して、利用者の尊厳を意識するように、理念の共有と実践が伝えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者と職員は、日常的に散歩に出かけ、近所の人と気軽に挨拶を交わしている。また、入居者の友人も気軽に面会に来ている。祭り等の行事にも参加している。	近隣の方との交流や地域の行事等に関する情報が得られているが、ホームの職員体制もあり、可能な範囲での交流が行われている。また、ホームでは、中学生の職場体験の受け入れが行われており、地域貢献にも取り組んでいる。	地域の方との交流の機会が限られている現状がある。職員の勤務状況にも合わせながら、地域の方との交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の体験学習を受け入れている。 認知症についての相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	本年度は、できていない。	会議については、今年度は開催されていないが、職員体制が整えることができ次第、会議を開催していく方針である。なお、昨年度の会議については、年間を通じて開催されている。	会議に参加していた方より、会議への参加を楽しみにしている旨の言葉をいただいている。定期的な会議の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者について情報を交換している。	ホームでは、生活保護の方の受け入れが行われており、区の担当職員との情報交換等が行われている。また、市の講習会等の際には、職員が可能な限り参加できるように、シフト等の配慮にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修により職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族からの要望もあり、ユニット入口に急な階段がある為ユニット入口は施錠している。	利用者の尊厳に配慮する基本理念のもと、ホームでは、職員による不適切な対応等が行われないように、管理者より注意喚起も行われている。なお、フロアーでの充分な見守りができない構造のため、ユニットの入口の施錠は行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	内部研修等により、高齢者虐待防止法を理解し職員同士注意しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1名の利用者が権利擁護を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明を十分行い、その後でも不安や疑問点があれば対応している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に家族会を実地し、家族の意見を吸い上げている。	現状、家族との交流会等は行われていないが、食事会の機会をつくるような構想はある。家族からの要望等は管理者が把握し、全体を統括している施設長に伝えられている。また、毎月の利用者毎の便りの発行が行われている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に意見や提案を聞き良いことは、反映させている。	定期的な職員会議等は行われていないが、日常的な申し送りが行われており、ユニット毎に職員間での話し合いが行われている。今年度、職員間で懇親会を実施しており、職員間での意見交換等につなげている。	今後に向けた、ユニットリーダーの育成を進めていることもあるため、現場職員からの前向きな意見等が出されるような体制づくりに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境にするように労働条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修費の補助を行い外部の研修に希望者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修で知り合った同業者と交流を持ち互いに訪問や意見交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人とは常に、家族とは随時、不満や要望などの聞き取りを行うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居説明を行う段階で、本人及び家族が何を求めているのか時間をかけて把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に、生活環境、状態などを見極め、必要な情報の提供や相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、洗濯、調理などできることをしてもらい共に暮らしているとゆう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、日ごろの暮らしぶりなどを報告し利用者の相談をしたり、また家族からの相談にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や以前の施設の職員など気軽に会いに来てもらえるように努めている。	利用者の馴染みの関係の方との交流の機会は少なくなっているが、ホームでは、入居前からの友人との交流等、関係継続にも取り組んでいる。また、利用者の親族がホームに訪問した際には、ホーム内で過ごしてもらうような配慮も行ってる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の個性や性格の良い面を引出しながら、入居者同士のコミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去者に対して面会に行くなどフォローに努め、相談があれば応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人と話したり、行動や気持ちから思いをくみ取り介護計画につなげチームで本人の希望にあった暮らしができるように支援している。	職員は、毎月の利用者毎の便りの作成等を通じて、利用者の意向等の把握につなげている。日常的には管理者による、職員からの聞き取りを行ったり、毎日の申し送り等を通じた情報の共有につなげる話し合いが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に必要な情報を把握し職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を注意深く把握するように、一日の様子は午前、午後、夕～夜間に分け、個人ファイルに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族に話しを聞いたりフロアー全体で検討をし現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画については、基本6か月毎に見直されている。管理者が計画作成担当者でもあるため、利用者の状態等をみながらモニタリングを行っており、家族との確認も加えて介護計画の内容の見直しにつなげている。	新たに入居した利用者より、細かな記録を残しながら、介護計画の見直しにつなげていく取り組みを始めている。取り組みが職員に浸透し、より良い取り組みにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルや日誌、申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買い物、外食など必要に応じて対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	特にしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医の往診が月2回、訪問ステーションからは、毎週看護師が訪れている。その他必要な医療機関には、家族対応となっている。	運営母体が医療機関でもあるため、医療面での連携した対応が可能である。日常的には、医師による訪問診療が行われ、利用者の急変時等には、受診等の対応が行われている。また、関連事業所の看護師による健康チェックも行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問ステーションの看護師に観てもらう他、必要時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院が緊急の入院などに対応してくれている。入院した際、定期的に見舞いに行き、本人、家族の相談に応じ主治医の先生からも経過を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期が予想される場合、ご家族と密に連絡をとり、話合い事業所で、できる範囲で主治医、訪問看護ステーションと連携を図れるようにしている。	法人内での医療面に関する支援が可能な体制がつくられていることもあり、ホームでの看取りを想定した対応は行われていない。家族とは、身体状態等の段階に応じた話し合いが行われ、関連の事業所への移行等の支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	管理者が救命救急講習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回いろいろな場面を想定して避難訓練、防災訓練を実地している。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている他にも、消防署の協力も得られている。また、ホーム内に水や備蓄品の確保も行われているが、地域の方との協力関係については今後のテーマでもある。	ホームにデイサービスが併設されている利点を活かした連携を含める取り組みや、地域の方との協力関係が深まるような関係づくりに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常的にプライバシーの配慮に心がけている。個人記録の個人名やミーティング時、他利用者の前での会話には、イニシャルにしている。	管理者より、職員が利用者の尊厳に配慮するように指導が行われており、気になった際には注意を促す取り組みも行われている。管理者の他に、リーダーにも意識してもらうような働きかけも行われており、職員全体で意識するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が一方的に決めることがないように、本人の意向を十分に把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務中心ではなく、散歩やレくなど本人に希望をとり一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人が着たいものを選んでもらっている。月1回、訪問利用を利用し、本人の意向に沿ったスタイルにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	何が食べたいか、聞いている。できる事を手伝ってもらっている。	ユニット毎にメニューがつくられており、利用者の好みや嗜好にも配慮した食事作りが行われている。利用者も買い物や下ごしらえ等、できることに参加している。また、食事の際には職員も同席しており、一緒に過ごすように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	血液検査の結果をもとに主治医と相談を行い食事の量を決めている。また、食事量や水分量は、チェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、義歯は毎晩消毒を行い保管している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声掛けやトイレ誘導を行っている。ズボンの上げ下げなど自分でできることは、してもらうように支援している。	職員は、利用者全員の排泄チェックを行っており、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での連携を深めている他、日常的にも運動等も取り入れながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、飲水、運動、繊維質の多い食事を心がけている。排泄チェック表で一人ひとりを把握し早めの対処をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は、一日おき入浴時間も決まっている。その中で希望やタイミングを合わせている。	利用者は、現状、1日おきの入浴となっているが、毎日の入浴の準備が行われていることで、柔軟な対応も可能である。また、重度の方に合わせた、職員複数による介助の実施や、季節に合わせた、柚子湯や菖蒲湯の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も疲れていたら居室にて自由に休んでいただき、夜も2時間おきに空調の調整をしたり気持ちよく寝れるように配慮している。朝は、無理やり起きてもらわず、遅れても朝食がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の情報を個人ファイルに入れ職員全員で共有している。症状に変化が見られた場合は医師に情報を伝え早めの対処をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事の好きな方は、家事を手伝ってもらい趣味のある方は個人的に自由に活動するなど個人に合わせて支援している。気分転換に時間は関係なく外に散歩に出掛ける時もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の体調を見ながら、本人のその日の気分や希望に応じて散歩に出かけている。買い物や外食も家族の方とできるように支援している。	現状、ホームからの外出の機会は限られているが、その日の状況等を見ながらの外出の取り組みが行われており、近隣の公園や買い物等の外出が行われている。また、季節に合わせた花見や初詣等の外出行事が行われている。	ホームでの外出の機会が少ない現状に関しては、家族からも改善の要望が寄せられている。職員体制が整備された際には、外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、個人では所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その都度、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられる飾りつけをしている。	リビングが2階と3階に設置されていることで採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気で過ごすことができる。また、通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品が飾られてあり、雰囲気づくりにも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席は気の合った者同士で決まっているが、日常は、自分の好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族と相談し、使い慣れたものを持ってきてもらっている。また、暮らしていく中で必要な物が出てきた場合には、家族の方と本人で買い物に出掛けれるように支援している。	ホームの居室には、フローリングの部屋及び畳敷きの部屋を用意しており、利用者の意向等に合わせることが可能であり、利用者の中には布団を敷いて生活している方もいる。また、利用者により、好みの物や馴染みの物等の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の扉に本人の部屋であることがわかるような飾り付けをしている。		